



あいち de ニューノーマル  
新日常の選択肢  
半農半Xな暮らしガイド  
— 買うからつくるへ —



# はじめよう！半農半X

『買う』から『つくる』の暮らし方・生き方

半農半Xとは、「持続可能な農ある小さな暮らしをベースに、「天与の才」X「天職、使命、生きがい、好きなこと、ライフワークなどを世に活かす生き方」。半農半Xという言葉の生みの親、塩見直紀さんはそう定義づけています。

農の時間は1日の労働時間の半分でもよい。朝だけ、夕方だけでも構わない。面積は大きくても小さくてもよい。自分サイズでよい。Xは、フルタイムでも、ボランティアでもよい。勤め人でもよいし、自営でも、起業でも、1つでも複数でもよい。半農半Xの概念はかなり幅広く自由です。

実際、愛知県内の半農半X実践者はとても多彩です。米、ホップ、野菜、果樹、ハーブ、卵など、扱っている農産物は人によって多種多様。自家消費であったり、直販したり、料理や加工してお店に出したり、家庭菜園レベルの人から専業農家のように大規模な人まで千差万別です。Xの部分も、神主、ラッパーやファシリテーター、庭師や土木作業、養殖や塾講師、カフェや居酒屋など、実にバラエティに富んでいます。

かつては、経済成長とともに所得が向上し、都市が発展して生活が便利になることが「豊かさ」の象徴でした。お金のために働き、必要なものがあればお金で何でも「買う」。ところが、そうした働き方やライフスタイルが問われるような時代になってきました。買うばかりで、誰かに自分の暮らしを委ねる生き方ではないのだろうか。自分の手で「つくる」ことで充実感、安心感を得る。土に触れる営みで得た経験をXに生かし地域や社会とつながる。あいちの半農半X実践者たちは、この「つくる」暮らしを選ぶことで、求めている「豊かさ」を実感している。そんな姿が見えてきました。

「半農半Xな暮らしガイド」が、半農半Xな暮らしへと皆さんが第一歩を踏み出すための「助」になれば幸いです。あいちの半農半X実践者の百花繚乱な暮らしをのぞいてみてください。



## 先駆者からの メッセージ

### 半農半X研究所塩見直紀氏

半農半Xとは、生き方・暮らし方・働き方に悩んだ20代の私が自分自身を救うために作りました。1993年から94年頃、私の中に生まれた言葉です。背景には2つのことがあります。ひとつは、環境問題への課題意識から農業の大切さに気付いたこと。もうひとつは生きる意味をどう見つけるかということです。

農業への関心があっても専業農家としてやっていくのはハードルが高い。けれど持続可能な農ある小さな暮らしをベースに、「天与の才」X「天職、使命、生きがい、好きなこと、ライフワークなど」を世に活かす生き方であれば、誰にでも開かれて、敷居が低くなる。こうして半農半Xというコンセプトが生まれました。

2020年3月、閣議決定された食料・農業・農村基本計画に半農半Xの文字が盛り込まれていました。また、日本のみならず、台湾、中国、韓国、ベトナムで現地出版社から翻訳出版され海外でも広がりを見せています。半農半Xがキーワードとして四半世紀、残り続けているのは、このコンセプトに普遍性があるからではないかと思っています。





北設楽郡東栄町で「農業×施設管理等の請負」で半農半Xを実践している星野さん(本誌には登場しませんがWEBサイトの方に記事を掲載しています)

まず生命維持のためには農業が欠かせません。しかし食べ物があっても生きる意味がなければ辛い。自然災害や経済危機、そして新型コロナウイルスの登場など社会不安が募れば募るほど、人々が半農半Xのコンセプトを求め、その評価が高まってきたと感じています。

近年、農村の人口が減り続け、地域コミュニティや農地の維持が難しくなっています。そこにたとえ1人でも、新しく移り住んだり、関わったりすることの影響力は大きいのです。また農村では、人数が少ない分、与える精神やコツコツ努力する継続力、創造性があればすぐにプレイヤーの、レギュラーの一員になれる環境があります。

半農半Xを実践したい皆さんが、自らが暮らしているイメージが湧く場と巡り合い、大好きな場所で農に携わりながら、自分を活かし、周囲を活かす、新しい生き方を愛知県で作っていただければうれしいです。



**プロフィール** 塩見直紀(おみなおき)「半農半X研究所代表総務省地域力創造アドバイザー、AtozMaker」

1965年、京都府綾部市生まれ。フェリスモに約10年在籍。1999年、33歳を機に故郷の綾部へUターン。2000年、「半農半X研究所」を設立。21世紀の生き方、暮らし方として、「半農半X」研究に「天職」をコンセプトを25年前から提唱。著書に「半農半Xという生き方【決定版】」など。半農半X本は翻訳され台湾、中国、韓国でも発売され、海外講演もこなす。若い世代のX応援のために、コンセプトスクールや半農半Xデザインスクール、綾部ローカルビジネスデザイン研究所、スモールビジネス女性起業塾(京都府北部対象)などもおこなってきた。古典的編集手法「Atoz」を使って、人と地域のXの可視化をおこなう。京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程(メディアアート領域)単位取得退学、美術博士。

# 愛知県の半農半X実践者マップ

愛知県内の多彩な実践者を一部抜粋して、本冊子に掲載しました。  
Webサイトの方でも実践者を紹介しています。本誌を読んだあとはWebサイトの方もぜひご覧ください。



地図上の  
☆から☆  
表示は、  
本誌P10の  
半農半Xの  
実践現場を  
見に行こう!  
の目印となります

愛知県農林水産部門  
pref.aichi.jp/nousei

他の実践者さんの記事は  
上記Webサイトに  
アクセスいただき、  
半農半Xバナーより  
ご覧いただけます。





# 農業×神主

## 農業×神主「実践者」横江克也さん

神主は農家にとって最高の副業!? 平飼い養鶏をする横江さんが2つの仕事をして感じているメリット

ごはんの上に卵を落とす。食べた人が「心が満たされる」と表現する味。横江さんはこの卵を産む90羽の名古屋コーチンを平飼い、販売している。他にもマヨネーズや、アイスクリーム、有機野菜を販売し、最近ではキッチンカーも始めた。

きっかけは大学4年生の時の、愛犬の死だった。確たる意思がなく就職活動している自分を恥じ、「生きることに真剣に向き合いたい」と選んだ道が農業だった。

福島県で緑のふるさと協力隊として1年活動後、香川県でオイスカ四国研修センターの研修生、指導員を経験。そこで現在のパートナー晴菜さんとの出会い

結婚。2人の出身地である愛知県内で家を探し始めていたところ、豊田市の空き家情報バンクがあることを知る。旭地区の空き家に入居を決め、養鶏メインで「てくてく農園」をスタートした。卵は1つ100円で販売。餌は地元産の米と草を混ぜたものを使う。鶏は卵を産まなくなっても飼い続ける。命に向き合った自分



ある日、氏神様を祀る神社でのお祭りに参加していた時、「神主やってみたい?」と言われ、想像もしていなかった神主の道に進んだ。1ヶ月間熱田神宮に通って養成講座で学び、今では年間30〜40回の神事を行う。

農業と神事は密接に関わっている。「自分でやっているからこそ、心の底から豊作を祈願し、五穀豊穰に感謝することができま

す」。ぴったりの副業を見つけた充実感に笑顔を見せた。

※詳細記事はWebをご覧ください

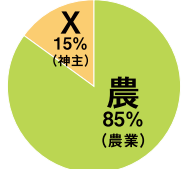
### 半農半Xの一年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農	養鶏・畑(野菜)											
	田んぼ											
X	歳旦祭	祈年祭		大祓い			祇園祭、天王祭、風神祭		秋祭り(大祭)		新嘗祭	大祓い

### 役に立った行政などの支援策

- 空き家バンク制度(豊田市)
- 空き家改修補助金(豊田市)
- 空き家片付け補助金(豊田市)
- 農地取得の制限緩和の特例(豊田市)

### 半農半Xの収入比率



- 農85%(農業)
  - ・養鶏(卵)60%
  - ・野菜30%
  - ・キッチンカーや加工品10%

- X15%(神主)
  - ・地域から依頼
  - ・個人から依頼





# 農業×庭師

## 空き家管理

農業×庭師・空き家管理「実践者」大山夫妻  
ホップ栽培、庭師、空き家管理、田畑の自給。すべては地域で暮らし続けるために

2021年10月。名古屋のク  
ラフトビル醸造所で初となる  
生ホップを使ったビールが発売さ  
れ話題となった。ホップはビール  
に苦味と香りをつけるツル性の  
植物。冷涼な土地でしか育たな  
い。醸造所からの依頼で初めて  
の栽培に挑戦したのが、『農事組  
合法人大野瀬温』のメンバーであ  
る大山泰介・眞記子夫妻だ。

長野県境からほど近い豊田市  
稲武地区の山あい。日々、自然を  
感じられる環境を求め、高台に  
建つ築100年の古民家に娘2  
人を連れて移住してきた。慣れ  
ない田舎での暮らし。ガソリンや  
灯油にお金がかかるという課題  
はあるが、さまざまなチャレンジ  
をしながら楽しんでる。近く  
にある田畑で試行錯誤しながら  
米と野菜を栽培。「夏の盛りには  
毎日食べきれないほどの野菜

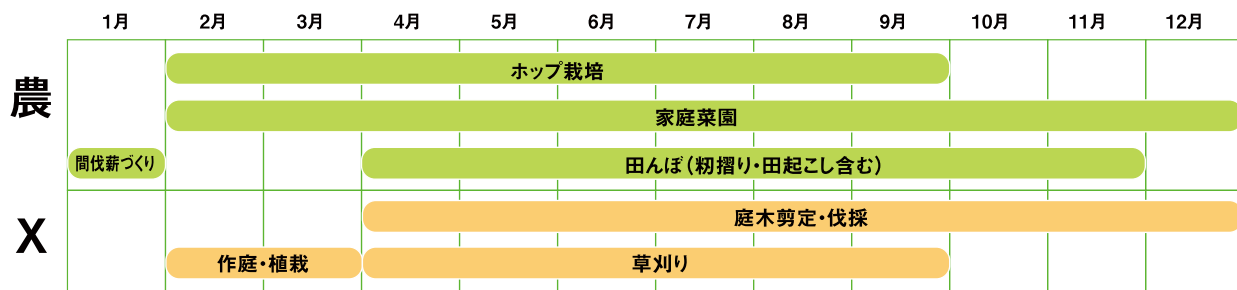
が食卓に並びます」と眞記子さ  
ん。泰介さんは、「自分のところ  
で採れた米があるだけで安心感  
が違います」と言う。

造園会社で10年勤めた後に  
独立した泰介さん。移住後に仕  
事があるのか心配していたが、地  
元はもちろん、豊田市の山村地  
域全域から声がかかるようにな  
った。「人とのつながりのおかげ  
で声をかけてもらっているのだ  
と思います」。人が減る地域で、  
空き家に風を通したり草刈り  
をしたりする空き家管理業も  
新しく始めた。誰かがこの地に  
暮らしたいと思った時、順調に  
入って来られるようにという願い  
がある。「こんなに良い暮らしの  
場はないと思っていますから」。  
泰介さんと眞記子さんは笑顔で  
声を揃えた。

※詳細記事はWebをご覧ください



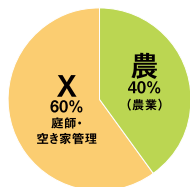
半農半Xの一年



役に立った行政などの支援策

- 豊森なりわい塾(豊田市)
- おいでん・さんそんセンター(豊田市)
- 空き家片付け・改修補助金(豊田市)
- 三河の山里なりわい実践者(愛知県)
- 豊田市役所 稲武支所ほか各山間部の支所

半農半Xの収入比率



- 農40%(農業)
  - ・ホップ50%
  - ・米(自家消費)30%
  - ・野菜(自家消費)20%
- X60%
  - ・庭師
  - ・空き家管理





# 農業 × 養殖 塾講師

農業 × 養殖・塾講師「実践者」小早川武史さん  
 大学4年で飛び込んだチョウザメ養殖の世界。農業や塾講師など多業に励む若き隊員

「チョウザメが、村の人口を超えましたので、食べに来てください」。こんなタイトルの観光ポスターが話題になったことがある。愛知のつべん豊根村。2019年4月、4年生になったばかりの現役大学生が地域おこし協力隊として着任した。名古屋生まれ名古屋育ちの小早川武史さんだ。就職の最終面接を断って、キャビア生産の世界に飛び込んだ。

東京にある大学に通いながら養殖場の場所探しからのスタートは大変だったが、溢れる若さと旺盛な好奇心でさまざまなことに挑戦している。

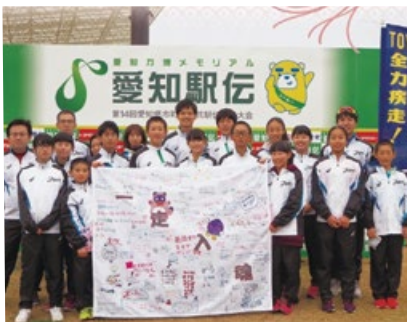
ほどこなく始めた農業は、3年目の今では2反の畑でタマネギやサトイモ、枝豆、大根など色々な作物を栽培するに至っている。

「地域活性化で一番大事なものは未来を担う子ども」。そんな想いから、中学生向けの学習塾を始めた。「野球やサッカーの綺麗なフォームを身に付けるためには、正しい走り方が大事」ということで、得意な長距離走で培ったノウハウを生かして、ランナーズクラブも立ち上げた。

チョウザメ養殖は、昼夜を問わず、水の管理・餌やり・水槽の

掃除を繰り返す地道な仕事だ。しかも、キャビアが採れるようになるまでには10年もかかる。「若い頃に色々挑戦して培ったノウハウは、お金以上の価値があると思うんです」と語る小早川さん。豊根を良くしていきたいと、楽しみながら果敢に挑戦しているよそから来た若者の姿は、豊根の子どもたちにとどのようにつ映り、未来にどのようなつながりがつくっていくのだろうか。

※詳細記事はWebをご覧ください



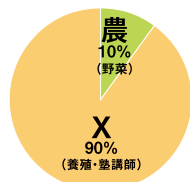
## 半農半Xの一年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農	タマネギ・ニンニク・とうもろこし・枝豆・サトイモ・大豆・大根など											
X	チョウザメとアマゴの養殖											
	学習塾(私塾)の講師、ランナーズクラブのトレーナーなど											

## 役に立った行政などの支援策

■ 地域おこし協力隊 (豊根村)

## 半農半Xの収入比率



■ 農10% (農業) ・野菜など

■ X90% ・養殖:85% (地域おこし協力隊) ・塾講師など:15%





# 農業×土木

## 農業×土木「実践者」江崎雄一郎さん

「本当の価値は、田舎にこそある」。こだわりの米作りを大規模に展開する土木好きオーガニック・ファーマー

愛知が誇る銘柄米ミネアサヒ。県内の水稲面積の6%弱でしか栽培されていないため「まぼろしのお米」と呼ばれている。そのお米を4町6反の規模で栽培している江崎さん。10年ほど前に標高450〜500mの山あいにある豊田市五反田町に移住。冷たくきれいな山水を使い、有機にこだわった米作りをしている。

「顔と心が見える関係々を大切にしたいんです」。丹精込めて作ったお米は、できる限り自ら配達して手渡しする。

偶然出会った地元建設会社の社長から声をかけられ、土木の仕事にも携るようになる。現金を稼ぐためというよりは、むしろ、農業のため、自分の視野を広げるため、そして、何よりも好きだから。「土木の仕事つて、農業とすごく関連があるんです」。意義と誇りを感じながら橋梁の架け替えや砂防ダムの建設などにも汗を流す。米作りに配達、土木の仕事と大忙しだが、サラリーマンでは得難い家族との大切な時間、自由な時間を味わっている。

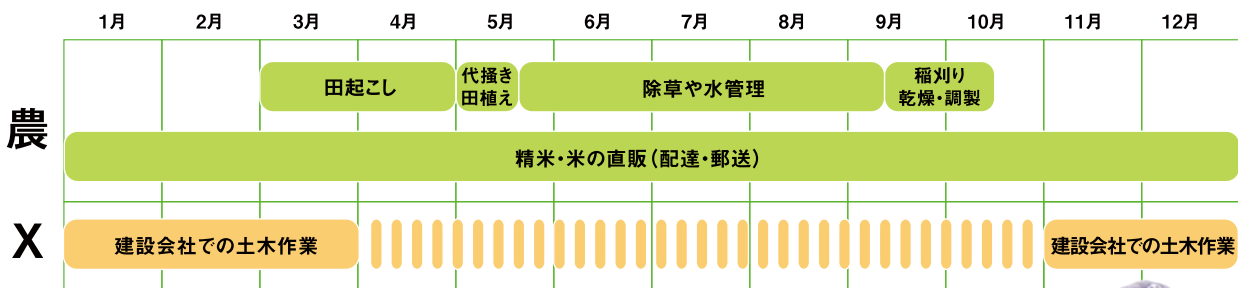
農業の手伝いをさせられたのが嫌で都会に出たが、その都会には居場所がなかった。便利で

モノは溢れているが、本当の豊かさとは違うと感じた。「人の縁に恵まれているんです。人に助けてもらっている人生です」と言う江崎さん。さまざまな人との出会い、背中を押されてたどり着いた山里での暮らし。「本当の価値は、田舎にあると思ってるんです」。人に感謝し、その地を愛しながら、デュアルな働き方ができる充実感に幸せを噛みしめている。

※詳細記事はWebをご覧ください



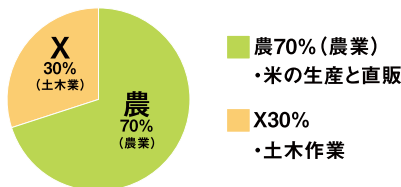
### 半農半Xの一年



### 役に立った行政などの支援策

- とよた中山間おこし隊(ふるさと雇用再生特別基金事業)
- 愛知県農業大学校ニューファーマーズ研修(作物)
- 青年就農給付金制度
- アグリマイティー資金(JAの資金融資)

### 半農半Xの収入比率







# 農業 × ファシリテーターラッパー

農業×ファシリテーター・ラッパー「実践者」安藤夫妻  
夫はラッパー、妻はファシリテーター。二人で農業とは別の顔を持つことが生み出す好循環とは？

豊田市松平地区で、春の七草とトウモロコシをメインに栽培する『くらら農園』の安藤源さん。別の顔を持つている。その名は『農系ラッパーMC・G』。農家としての経験をもとに、作詞作曲したラップをインターネット上で公開している。額にバンタナ、その上にキャップを被る。サングラスをかけ、首には金色に輝く太いチェーンが2本。ある曲では「五穀豊穡！所得向上！Say農業！」と感情込めて韻を踏む。ペタランにしか思えない。ところが、やろうと思いついたのは2021年2月だったというから驚きだ。



そんな時、源さんから「一緒に農業やってみない？」の声。やってみると作業に集中でき、気持ちいい。たらのバランスが取れていた。新しく『松平こどもサークルかこの』という子ども居場所づくりに取り組み、小学生の話し合いの場でファシリテーターの経験を活かそうと前を向く。

夫婦で農業をすることで、お互いがやりたいことに向き合える余白が生まれ、やりたいことをやることで、リフレッシュした状態で農業に向き合える。良い循環ができています。

※詳細記事はWebをご覧ください

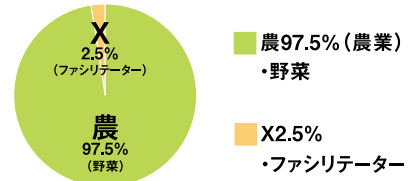
## 半農半Xの一年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農					サツマイモ							
	七草		とうもろこし・枝豆					小松菜・ブロッコリー・七草				
X					ファシリテーター				ファシリテーター			
		音楽制作							音楽制作			

## 役に立った行政などの支援策

- 定住奨励金(豊田市)
- 山間地営農等振興事業(豊田市)

## 半農半Xの収入比率





# 農業×カフェ

## 農業×カフェ「実践者」剛谷夫妻

行動派と慎重派のふたりだったからできた。小さく始めて大事に育てるハーブ農園とカフェ

知多半島の先端。山間の集落にある築70年の古民家をセルフリノベーションし、リッコカフェ&ガーデンを営んでいるのが剛谷哲司さん、久美さんご夫婦だ。Riccoとはイタリア語で「豊」という意味。農園でハーブを栽培する傍ら、そのハーブを使ったハーブティーの販売、リース、スワッグ作りの体験、そば粉のガレットをメインにしたプレートランチの提供、ミニチュアホースとのふれあいなど、「大人の女性が心豊かになり、癒される場づくり」を実践している。

ハーブに興味を持ったのは、哲司さんの仕事でマレーシアに滞在していた時のこと。当時3歳だったお子さんが風邪を引いた時、近所にあったお店で「ちよつとした風邪ならハーブティーを飲ませておくといいよ」とアドバイスされた。哲司さんは、第二の人生として、ハーブでの就農を考えるようになった。

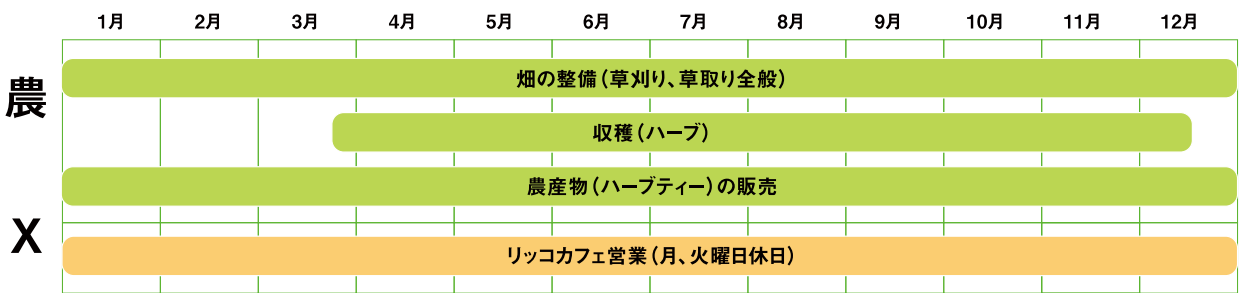
哲司さんと久美さんは、帰国後1年間、静岡県三島市の農園で働きながらハーブ栽培を学んだ。その後、哲司さんの古い友人の紹介で、温暖で土壌の良い南知多町に移住。まずはハーブ農園で育てたでハーブティーを

販売するところから始め、2016年には観光農園をオープン、2018年にリッコカフェ&ガーデンをスタートした。「やりたいことをやっているから楽しい」と笑顔を見せるお二人。「まずは小さく始めて順調にいけば広げていけばいい」と考えすぎず、まずは1歩踏み出してみるこの大切さを教えてくれた。

※詳細記事はWebをご覧ください



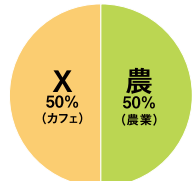
### 半農半Xの一年



### 役に立った行政などの支援策

■新規就農支援金  
(南知多町)

### 半農半Xの収入比率



- 農50% (農業)
  - ・農作業全般
  - ・ハーブティー袋詰め
- X50%
  - ・カフェとしての飲食提供
  - ・スワッグ・リース作り体験



# 半農半Xの実践現場を見に行こう!

今回、本誌とWebサイトで掲載をさせていただいた半農半Xの実践者の中には、お店をやられている方々もみえます。

ドライブや遊びがてらに半農半Xのお店や農園に行ってみてはいかがでしょうか?

半農半X実践者に会えたり、実践者の日常が垣間見られるかもしれません。

※毎日営業してなかったり、不在の場合もあります。事前にご自身でお確かめください。また業務の支障にならないようにご配慮ください。



農業×施設管理等の請負

[実践者] 星野克之さん



閉校した小学校を地域の拠点として利活用。「のき山文庫」や「Cafeのつきい」、「東栄町観光まちづくり協会」などの施設があり様々な体験イベントなども開催。イベントはWebをチェック。

東栄町体験交流館「のき山学校」

愛知県北設楽郡東栄町大字下田字軒山13-7



Tel.0536-76-1722

電話対応9:00~17:00

<https://tehohe.com/nokiyama>



農業×飲食店

[実践者] 河原夫妻



築90年の古民家を音楽好きの二人がセンスよく改装したおしゃれな店内。料理自慢の二人が工夫を凝らした和洋の料理は評判が良く、人気のある飲食店。お酒も豊富に取り揃えられている。

古民家ダイナー「月猿虎」

愛知県北設楽郡東栄町大字月字布川田11-4



Tel.0536-76-0303

定休日:月・火・水曜日

<https://facebook.com/Tsukienko>



農業×カフェ

[実践者] 剛谷夫妻



古民家をご主人がリノベーションしたおしゃれな店内。無農薬のハーブを使ったハーブティーが楽しめます。ランチには「ワンプレートガレット」が人気。リースやスワッグのワークショップも好評。

ハーブ農園リッコ(リッコカフェ&ガーデン)

愛知県知多郡南知多町大字山海字長坂78



Tel.090-9945-6768

定休日:月・火曜日

<https://www.riccoherb.com>



農業×カフェ

[実践者] 伊藤吉孝さん



2020年にリニューアルオープンした苺の観光農園。カフェスペースが併設しており、自家栽培のイチゴをふんだんに使った、パフェやバンケーキなどのカフェのメニューが好評。

観光農園「苺の伊藤園」

愛知県岡崎市藤川町字黒土92-1



Tel.0564-77-3773

定休日:水・木曜日

<https://www.itoen-agri.com>



あいち  
de  
ニューノーマル  
新日常の選択肢  
半農半Xな暮らしガイド  
— 買うからつくるへ —

事例に関する移住定住や就農等の支援策などの相談窓口

- 岡崎市 経済振興部 中山間政策課  
Tel.0564-23-6206 / E-mail : chusankan@city.okazaki.lg.jp
- 豊田市 企画政策部 企画課  
Tel.0565-34-6602 / E-mail : kikaku@city.toyota.aichi.jp
- 新城市 企画部企画政策課  
Tel.0536-23-7620 / E-mail : kikaku@city.shinshiro.lg.jp
- 設楽町 企画ダム対策課  
Tel.0536-62-0514 / E-mail : kikaku@town.shitara.lg.jp
- 東栄町 振興課  
Tel.0536-76-0502 / E-mail : shinkou@town.toei.lg.jp
- 豊根村 地域振興課  
Tel.0536-85-1312 / E-mail : chiikishinko@vill.toyone.lg.jp
- 南知多町 建設経済部 産業振興課  
Tel.0569-65-0711 / E-mail : sangyo@town.minamichita.lg.jp



<https://www.pref.aichi.jp/nousei>

本誌紹介した実践者さんの詳細記事や他の実践者さんの記事は  
上記Webサイトにアクセスしていただき、半農半Xバナーよりご覧になれます。